

公益社団法人私立大学情報教育協会

平成 27 年度第 6 回情報教育研究委員会情報リテラシー情報倫理分科会打合せ会議事記録

I. 日 時：平成 28 年 3 月 29 日(火) 16:00~18:00

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室

III. 参加者：玉田主査、高岡委員、和田委員、金子委員、本村委員、中西委員 (Skype)、
松田アドバイザー、波多野アドバイザー
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

情報リテラシー教育のガイドライン及び教育モデルについて、委員から表現を含む整理案が提示され、ICT 戦略大会のアンケートを振り返りながら検討を行い以下のような意見があった。

1. ICT 戦略大会アンケートなどからの振り返り

- ・ 分科会では約 80 名の参加があり、アンケートからは否定的な意見もあり十分に理解してもらえなかった印象があった。
- ・ リテラシー教育を情報入門として固執してイメージするとアプリ操作教育時間の不足や授業の具体例提示などの理由もあり十分理解されなかったのではないかな。
- ・ 専門教育での情報活用へどのように結びつけるのか、各分野での授業パターンが必要になるのではないかな。
- ・ 全国のリテラシー教育担当者を考えた場合には、ガイドラインに対応した授業アイデアや課題設定が現状では難しい困難ではないかな。委員会の主張からモデル案までをセットでの説明が必要で、大会の時は統計の例も含めて広く説明したのが理解しきれなかったと感じた。
- ・ 各大学でのリテラシー教育については、委員校では 15 回授業を実施しているが、以前のアンケートでは情報センターでの教育を含めて 8 割程度となっており、操作が未熟な学生への対応や初年度で教育して 2 年以降のレポートなどアカデミックスキルでの活用が求められていることもある。
- ・ アプリ操作などは授業（単位）外の時間に講習会を開催して習得させてはどうか、例えば運営を学外講師派遣を利用して学修させる取り組みが考えられるのではないかな。
- ・ 過去にリテラシー授業には操作スキルの修得を求める指摘があったと聞いているが、中教審の答申からの引用を説明に含めるべきではないかな。
- ・ 大学や教員によって段階的に進められる提案が出来た方が良いのではないかな。

2. 具体的な進め方・指導方法・モデル案、ガイドラインについて

- ・ モデル案について、成果物・評価・振り返りは問題発見・解決を 3 サイクル行う中で全てレビューさせ振り返らすのは学生にも教員にも負担が大きく、メリハリを付けるなど工夫してはどうか。
- ・ 1 回目の授業で事例を取り上げるが、その事例について授業でそのまま使える例をいくつか提示する必要があるのではないかな。何を事例にしたら良いか困る教員を想定して最初の段階ではていねいに提示した方が良いのではないかな。

- 教育モデルを15回で設定したが、松竹梅設定、前期後期、年度別の設定ができるよう分割・組み合わせや時間設定の延長など大学が選べることを想定してはどうか。
- 用語の整理として、問題発見・解決の枠組み部分は、説明部分では「情報及び情報通信技術を用いて問題発見・解決を思考する枠組みの獲得」の表現にすることにした。また、到達点1では枠組みの理解を説明できるに更新し、他の到達点の語尾表現も確認した。
- 到達点評価部分では、ループリックを用いることにしていたが、評価の視点にもとづいての表現を使うことにした。
- 問題発見・解決の過程を示す図について、⑤振り返り過程が追加されたが、過程項目として追加するのではなく、つながりの線部分に「振り返り」として記述する程度に留めることにした。また、到達目標B,Cの連携はそれぞれ1個の吹き出しで表現することにした。
- 上記以外で到達目標A,B,C、到達点などの説明を含め更新した内容が確認された。
- 今年度のまとめとして、ガイドラインと指導方法パターン例を提示することにした。

VI. 今後の予定について

- 次年度は分野別情報教育分科会と合同で開催し、教育モデル研究を進めることにしている。